

◇進路通信◇



第 7 号 2021年10月22日

共通テストへの道 ②

新傾向と学習のポイント～数学・国語

■数学

数学において求められる基本的思考力の一つは、公式や定理をよく理解することです。公式や定理の原理を理解していることは、自分で導き出せるということです。数学ⅠAの新しい特徴は、文章題と統計に関する出題が必答であるということです。前者は共通テスト全体に通底する「読解力」を問ひ、後者は今後ますます重要になる「データ分析」の基礎だからです。また、数学の出題方針にある「数学的な問題解決の過程を重視する」とあり、実際の問題では**解答の手順＝誘導**に従って問いが設定され、**解法の考え方＝思考力**をみています。数学的思考力を高めるには、**別解を考える**ことが効果的です。選択問題に関しては、「場合の数と確率」「整数の性質」「図形の性質」の3領域から2題を解答しますが、基本的には「**場合の数と確率**」「**整数の性質**」の問題を解くことになります。理由は、2次試験で問われる領域がこの2つだからです。「図形の性質」は、直接2次試験で問うことがなく、それらを使って解答するように作問されています。数学ⅡBに関しては、センター試験の勉強が基本となりますが、2025年1月に実施される新しい高等学校学習指導要領に準拠した共通テストから、試験時間が10分延長となり、数学ⅠAと同じ70分となり、「思考力」「表現力」を問う出題が予想されます。



■国語

国語については、文系は**漢文から攻略**しましょう。理由は、現代文の分量が増し、**複数文章や図表の照らし合わせ**など、センター試験より**一層時間がかかる**ことが予想されます。時間切れで得点源になる漢文に手がつかなくならないようにするためです。



現代文ですが、2021年の第1日程共通テスト現代文で注目すべきなのが**第1問の問5**です。本文を読んだ生徒が考察した過程を示した3つの「ノート」が資料になっていて、その中にある空所の内容を本文と照らし合わせながら考える新傾向の問題です。本文は『江戸の妖怪革

命』という文章で、問1～問4の選択肢は正解しやすい「易しめ」の作問でした。これは、問5への配慮かと思われます。この問5で求められる力は、文章や資料の内容把握とともに、資料と資料の関連を把握し、どのように効率的に答えを導くかを判断し、それを通して表現を検討する「思考力、判断力、表現力」を問うものです。こうした力は、一朝一夕にはつかないこと、また、出題形式はさまざまにでき、決まった解き方を練習できるというものではないので、臨機応変に考え、対応する力を養うことが求められます。具体的な対策としては普段から長文を読み慣れておくこと、問題は時間を区切って解答することです。

2022年共通テスト現代文の出題で予想されるのは**実用文と図表**です。これに関しては、出題方針に明示されているので、予想問題集等であらかじめ慣れておきましょう。

共通テストは平均正答率が5割になるように作問されることが示されています。2021年の国語全体の平均点は、第1日程が117.51点(59%)で、センター試験と大きくは変わりませんでした。しかし、自己採点結果のリサーチをみると、**高得点者の割合は明らかに減っています**。来年は国語に限らず、全体的に問題が難しくなり平均点が下がり、また、高得点も取りにくくなることが予想されます。大切なことは、**難しくても動揺せず、時間配分を意識しながら、しっかり考えて解答すること**です。

10月28日(木)の全校実施模試では、3年生は共通テスト形式です。

